

企画展

とのさま おかたなはいけん
お殿様の御刀拝見

- 会場 1階 松平家史料展示室
- 会期 令和4年9月1日(木)～
10月4日(火)
- 休館日 9月12日(月)

徳川家康の二男・秀康にはじまり、諸国大名の中でもひとときわ高い家格を誇った越前松平家。その「殿様」の家に伝わった刀剣コレクションのリストが『御佩刀記録』（松平文庫、福井県文書館保管）です。現在も当館に収蔵されている越前松平家伝来の刀剣の多くが、このリストに含まれていますが、それらをこのリストと対照することで、新しく明らかになった由緒や歴史的事実があります。今回は『御佩刀記録』の記述と実物の刀を同時にご覧いただき、刀剣の由緒や来歴をあらためてご紹介していきます。

おんはいとうきろく
『御佩刀記録』とは？

安政2年（1855）に作成された、当時越前松平家が所有していた刀剣・刀装具類の目録です。越前松平家や福井藩に關係する文書類「松平文庫」（福井県文書館保管）中の史料として伝えられています。上下2冊。上冊は越前松平家で保有する刀剣・刀装具類を太刀、刀、脇指、小脇指など25の部門ごとにまとめ、下冊では「殿様」すなわち当時の藩主・松平春嶽所用の刀と脇指を収録しています。刀剣それぞれにその由緒や折紙の代付け（評価額）、付属する刀装（拵）の内容などが細かく記されています。上下冊合わせて太刀20、刀249（小さ刀（正装した時に差す短い刀）を含む）、脇指131、小脇指（短刀にあると考えられる）75、薙刀14、槍77（ただし刀・脇指は上下冊で一部重複している可能性あり）、その他拵とは別に保管されていた刀装具類547件が掲載されています。幕末とはいえ、江戸時代の福井藩主家が保有した刀剣類の全貌がわかる史料は現在ほかに見当たらず、貴重な史料といえるでしょう。



『御佩刀記録』
(松平文庫 福井県文書館保管)

いちのおんはこ
「一之御箱」とは？



『御佩刀記録』にみられる「一之御箱」に納められている刀であることを示す印

『御佩刀記録』に掲載された刀のうち、將軍からの拝領品など、特に重要と思われるものには「一之御箱」に納められていたことを示す「四角に一」の印のスタンプが押されています。

「一之（御）箱」として有名なものに、豊臣秀吉が大坂城に集めた天下の名刀のうち、選りすぐりの名刀中の名刀を納めた「一之箱」があります。「骨喰藤四郎」「一期一振」「南泉一文字」「にっかり青江」など現在でもよく知られる、名だたる名刀が納められていました。越前松平家でも、特に重要な由緒を持つ刀剣を、同じように「一之御箱」と称する箱に納め、大切に管理していました。

福井藩の歴史書『続片叢記』によると、「一之御箱」は二つあり、本丸御殿の表玄関に近い大御番所（番士＝警備係の詰所）に保管されていました。蔵の中に嚴重に保管しなかったのは、たえず番士の目に触れるところで、万一の災害の際もすぐに避難させることができるからだといいます。実際、寛文9年（1669）の寛文の大火で、城下はもとより福井城の大部分が焼失してしまった時も、「一之御箱」は番士の手により足羽山上の天魔ヶ池（現在の自然史博物館前）まで運ばれて無事だったということが、これも『続片叢記』の記述に見えます。

お殿様の家族の御刀

『御佩刀記録』には、藩主（殿様）のほか、その家族の持ち物であった刀もいくつか掲載されています。最も多いのは「超倫院様御指」とされているものです。超倫院は14代藩主齊承の長子・於義丸のことで、6歳で亡くなっています。この薄命の若君のために、21振の様々な刀が調えられています。

【写真左・中】

短刀 銘 アリハウシ（有法師）とその拵（越葵文庫 当館保管）

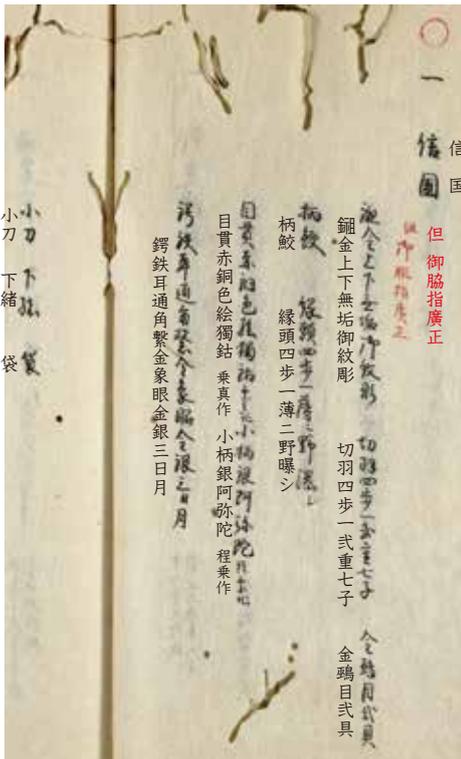
【写真右】

『御佩刀記録』『御小脇指之部』の有法師短刀の項（松平文庫 福井県文書館保管）

→もとは天和3年（1683）に重臣・稲葉采女から献上された品であることが分かる。刀や刀装（拵）に関する記述は現存するものと一致している。



お殿様の御刀



（松平文庫 福井県文書館保管）

『御佩刀記録』下冊は「殿様御指料」つまり当時の「殿様」、松平春嶽所用の刀のリストとなっています。刀35振、脇指26振が掲載されています。また「殿様御指料」に含まれていないものの、春嶽が先代藩主など所用の刀を引き継いで常用とした刀も伝わっています。それらの刀と『御佩刀記録』の記述を比べてみましょう。



（福井市春嶽公記念文庫 当館所蔵）



（福井市春嶽公記念文庫 当館所蔵）

『御佩刀記録 下』『殿様御指料御刀之部』の信国刀の項【左】と松平春嶽所用として現在伝わっている信国の刀【上段】、その拵である鯉鱗包打刀拵【下段】。金具や鐔についての記述は一致しているが、最も特徴的な「鯉の鱗」を使用した鞘や、その他替鞘が二本あることについては『御佩刀記録』ではなぜか言及がない。『御佩刀記録』作成後に新たに調えられた可能性もある。

ギャラリートーク

担当学芸員による展示会解説

9月11日（日）・10月2日（日）
いずれの日も午後2時から40分程度

参加無料
（但し観覧券必要）

見どころ講座

「越前松平家の刀剣目録『御佩刀記録』について」

9月25日（日）午後2時より
当館2階講堂にて（定員40名 当日先着順）

参加費 1人100円

次回の展示 秋季特別展

ジャパニーズ・ウェディング 寿ぎのきもの 日本のお嫁衣装

10月8日（土）～11月23日（水・祝）※10月31日は展示替えのため休館します。

展示解説シート No.153 令和4年9月1日発行
福井市立郷土歴史博物館 〒910-0004 福井市宝永 3-12-1
電話 0776-21-0489 Fax 0776-21-1489
担当：松村知也 印刷/宮本印刷